

## 第3章 計画の基本的な考え方

### 1 基本理念（スローガン）

いつでも どこでも だれとでも  
心あたたまる町 ほかほかTOGO！

普段、地域の中で生活をしていると、「家の周りに雑草やごみが溢れていて迷惑だな」「あいさつをしても、いつも無視をされて不快だな」といったように、理解し難い振る舞いに出会う場合があります。

そのように振る舞う人たちは、もしかしたら、病気や経済的な事情で苦しんでいたりと、人とのコミュニケーションが苦手な孤立しているなど、何らかの困りごとを抱えているのかもしれませんが。

また、いつか自分も同じような困りごとを抱えることがあるかもしれません。

「何か困っているのかも」と気づき声を掛けてみる、そんなあなたの「思いやり」がきっかけで、相談窓口や福祉サービス等の支援につながることも考えられます。

そして、自分の好きなことやできることを活かし、地域の中で助け合うことで、どのような状態になっても、安心して暮らせるまちづくりにつながっていきます。

このように、日頃からみんなの「思いやり」を積み重ね、差別や偏見のないつながりの輪を広げ、みんなで町全体をほかほかに温かくしていきたいという願いを込めて、この基本理念を定めます。

### 2 社会福祉協議会の行動指針

目指します 地域で助け合えるネットワーク

誰もが福祉の対象になり、担い手にもなります。助け合い、支え合い、つなげ合う、顔なじみが増えるまちづくりをみんなで目指したい。

そこで、地域の関わりを増やし、住んでいる人たちと一緒に皆で助け合えるネットワークづくりに取り組んでいく姿勢を行動指針とします。

### 3 基本目標・基本施策

本計画が目指す「地域共生社会」の実現に向けて地域福祉を推進していく上で重要な柱となる「早期発見・予防」「つなぎ、つながる体制」「丸ごと受け止める体制」「適切な福祉サービスの提供」「見守り・支え合う体制」の5つのキーワードをもとに基本目標を定めます。

そして、基本目標ごとに「個人・家族」「地域」「町全体」の3つの対象領域と「人材育成」の視点で基本施策を定めます。

「個人・家族」は、地域の中の最も小さな対象領域となります。「個人・家族」より少し広い組・班、区・自治会、小学校区といった「地域」、それよりさらに広い「町全体」と対象領域を分けて考えることで、施策の目的を明確化するとともに、重層的な施策展開を目指します。

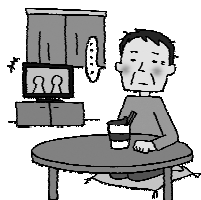
なお、全ての基本目標において、地域福祉の推進主体である町民を始め、社会福祉関係者、ボランティア、団体といった人材がベースとなるため、基本施策の中に「人材育成」の視点を入れています。

#### 基本目標1 みんなの困りごとを早期発見・予防する仕組みづくり

地域の中には、自らSOSを発信できずに悩みを抱え困っている人や、困りごとだと気付いていない人がいます。

そうした困りごとを行政だけで把握することは難しく、地域の中で生活しているからこそ、周りの人たちが気付くことができるケースも多くあります。

そのため、訪問によるアウトリーチ\*や、福祉に関する正しい知識の普及・啓発を行い、隣近所の異変や地域の困りごとを早期発見できる仕組みづくりを進めます。

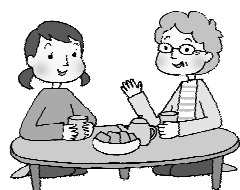


- 基本施策① 訪問支援体制の推進
- 基本施策② 地域課題を見つける体制の整備
- 基本施策③ 福祉に関する広報・啓発活動の充実
- 基本施策④ 困りごとに気付ける人材の育成

#### 基本目標2 みんなでつなぎ・みんながつながる体制づくり

早期発見した困りごとを必要な支援・サービスにつなげるためには、人と人、人と関係団体、団体同士が日頃から声を掛け合い、情報共有・連携体制を構築しておくことが必要です。

そのため、地域の中で町民がつながる機会を充実し、町民の参画を促進するとともに、そうした場において、異変や困りごとに気付いた際には、町や関係機関につないでもらえるような体制づくりを進めます。



- 基本施策① 顔見知りが増える機会の充実
- 基本施策② 地域活動の活性化
- 基本施策③ 声をかけ合える体制づくり
- 基本施策④ “つなぎ役”の育成

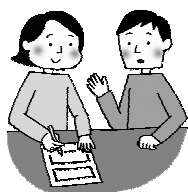
### 基本目標3 丸ごと受け止める体制づくり

近年、8050問題\*やダブルケア\*といった、介護や子育て等の福祉領域だけでなく、医療、就労、教育などの生活全般に関する問題を複合的に抱えて困っている人が増えています。

こうした複合的な問題は、従来の「縦割り」での対応では不十分であり、全庁横断的な体制によって包括的に支援していくことが必要です。

また、困りごとを複合的に抱えている人の多くは、地域の中で生活していることから、地域の中で気軽に相談できたり、町民の支え合いによって困りごとを解決していくなど、複合的な課題を“丸ごと”受け止め、地域の中で解決していくことが求められています。

そのため、たとえ個人的な問題であっても「自分とは関係ない」と考えてしまうのではなく、“自分ごと”すなわち“我が事”として捉えていく意識の醸成を図るとともに、地域でも行政でも“丸ごと”受け止める体制づくりを進めます。



- 基本施策① 相談窓口の充実と周知
- 基本施策② 地域の拠点を活かした地域福祉の推進
- 基本施策③ 包括的な支援体制の構築
- 基本施策④ “我が事”の意識の醸成

### 基本目標4 適切な福祉サービスの提供

要介護状態になっても、障がいがあっても、どのような状態であっても、地域で自分らしく安心して暮らすためには、福祉サービスが適切に提供されることが必要不可欠です。

そのため、福祉サービスに関する情報を適切に発信し、必要な人が必要なサービスを利用できるように努めます。

また、公的なサービス提供だけでは対応が難しいケースもあることから、多様な担い手を確保するとともに、地域、ボランティア、事業所や団体、行政等が協力して、地域における新たな社会資源を創出するなど支援の充実を図ります。



- 基本施策① 福祉に関する制度やサービスの周知
- 基本施策② 重層的なネットワークづくり
- 基本施策③ 福祉サービスの充実と質の確保
- 基本施策④ 多様な担い手の確保

## **基本目標5** 見守り・支え合う体制の充実～合言葉は「ありがとう」「お互いさま」～

地域の中には、「ゴミ出しを手伝ってほしいな」「大きな災害が起きたときに、手助けしてほしいな」といったちょっとした困りごとを抱えている人や、地域とのつながりがなく孤独を感じている人がいます。

こうした地域の課題を解決するためには、地域の中で見守り・支え合う体制を構築する必要があります。

そのため、町民が「好きなこと」「できること」で活躍できる場を充実し、「ありがとう」と「お互いさま」が響きあう、町民一人一人が地域の中に居場所があるまちづくりを進めます。



基本施策① 孤立を防ぐ仕組みづくり

基本施策② 「ありがとう」「お互いさま」でつながる地域づくり

基本施策③ 福祉のまちづくりの推進

基本施策④ 好きなこと・できることで活躍できる環境づくり

### ①地域の中で“丸ごと”受け止める体制の整備

少子高齢化の進行や、単身世帯の増加といった社会構造の変化により、子育てや介護など様々な問題が同時にいくつも重なってしまい、生活のしづらさを感じる人が増えています。

例えば、家族の中にひきこもり状態の人がいて困っている家庭には、ひきこもりだけでなく、介護が必要な人がいたり、失業して生活が苦しかったりと、困りごとをいくつも抱えているような場合があります。

しかし、こうした悩みや困りごとを抱えていても、役場や専門機関に相談することをためらったり、SOSを自ら発信できずにいる人がいます。

困りごとの深刻化を防ぐためには、早期発見・早期対応することが重要であり、困りごとにいち早く気付くことができるのは、地域の中で生活している町民の皆さんです。

また、孤独死など社会的孤立や、既存のサービスだけでは対応が難しい制度の狭間と呼ばれる問題を解決するためには、町民の皆さんを始め、地域、ボランティア、事業所や団体、行政が連携して取り組む必要があります。

困っている人の状況をすぐに理解することは難しくても、「自分とは関係ない」「困った人だ」と排除してしまうのではなく、「困ったときはお互い様」という気持ちで助け合い、解決していくことの積み重ねが、多様な個性や価値観を認め合えたり、病気や介護が必要な状態になっても自宅で生活を続けられる、そんな地域づくりにつながっていきます。

こうしたことから、いくつも抱えている困りごとを地域の中で“丸ごと（全部）”受け止める場として「地区社会福祉協議会\*」を立ち上げ、解決に向けた取組を推進します。

### ②行政における包括的な相談支援体制の整備

近年、ひきこもり、8050問題\*やダブルケア\*といった様々な要因が複合的に絡み合った課題が浮き彫りになってきています。

こうした課題に対し、従来のような年齢や分野別での対応ではなく、包括的に支援することが求められています。

そのため、庁内の関係職員で構成する地域福祉推進プロジェクトチームにおいて、こうした複合的な課題への支援や相談対応のワンストップ化について協議し、全庁横断的な連携体制の構築につなげていきます。

### ③支援の「受け手」と「支え手」を越えた関係づくり

支援を受けているからこそ、当事者の気持ちに寄り添えたり、当事者の声だからこそ、困っている人の心に届くといったことが考えられます。

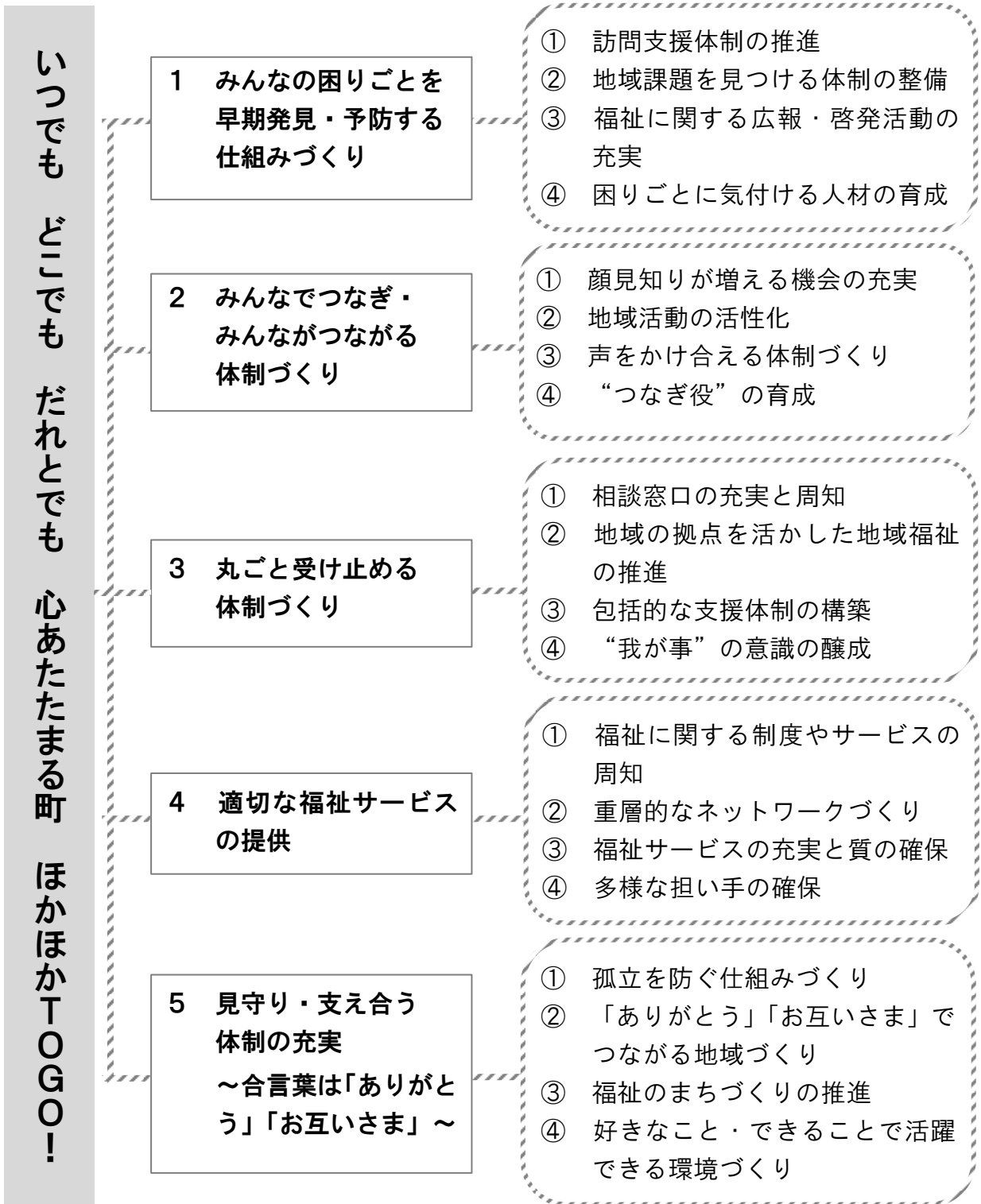
そのため、支援を受けている人も、自分ができることで支援の「支え手」になれる機会をつくることで、全ての人が活躍できるまちを目指します。

## 4 計画の体系

〔基本理念〕

〔基本目標〕

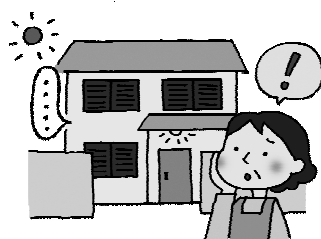
〔基本施策〕



〔社会福祉協議会行動指針〕

**目指します 地域で助け合えるネットワーク**

## ■基本目標・基本施策と計画推進のイメージ



### 基本目標1

#### みんなの困りごとを 早期発見・予防する仕組みづくり

- ①訪問支援体制の推進
- ②地域課題を見つける体制の整備
- ③福祉に関する広報・啓発活動の充実
- ④困りごとに気付ける人材の育成



### 基本目標2

#### みんなでつなぎ・ みんながつながる体制づくり

- ①顔見知りが増える機会の充実
- ②地域活動の活性化
- ③声をかけ合える体制づくり
- ④“つなぎ役”の育成

### 基本目標5

#### 見守り・支え合う体制の充実 ～合言葉は「ありがとう」「お互いさま」～

- ①孤立を防ぐ仕組みづくり
- ②「ありがとう」「お互いさま」でつながる地域づくり
- ③福祉のまちづくりの推進
- ④好きなこと・できることで活躍できる環境づくり

### 基本目標4

#### 適切な福祉サービスの提供

- ①福祉に関する制度やサービスの周知
- ②重層的なネットワークづくり
- ③福祉サービスの充実と質の確保
- ④多様な担い手の確保



### 基本目標3

#### 丸ごと受け止める体制づくり

- ①相談窓口の充実と周知
- ②地域の拠点を活かした地域福祉の推進
- ③包括的な支援体制の構築
- ④“我が事”の意識の醸成



## ■基本目標1～5までを地域の中で考えると…

### 基本目標1 みんなの困りごとを早期発見・予防する仕組みづくり

東郷あやめさん（48歳）は、同居中の義父（73歳）の物忘れが多く、「もしかしたら認知症かな…」と悩んでいました。ある日、元気のないあやめさんを心配した民生委員が声を掛けました。



### 基本目標2 みんなでつなぎ・みんながつながる体制づくり

あやめさんから話を聞いた民生委員は、地域包括支援センターに相談することを勧めます。



### 基本目標3 丸ごと受け止める体制づくり

地域包括支援センターを訪ねたあやめさんは、義父の様子を伝え、話し合いの結果、認知症初期集中支援チームによる支援をお願いすることにしました。

また、あやめさんは、仕事や子育てで疲れているといった気持ちも吐露します。



### 基本目標4 適切な福祉サービスの提供

チームによる医療受診の支援の結果、義父は認知症の専門医を受診し、軽度のアルツハイマー型認知症と診断されました。

また、あやめさんは、ファミリー・サポート\*の紹介を受け、娘（11歳）の習い事の送迎をお願いすることにしました。



### 基本目標5 見守り・支え合う体制の充実

～合言葉は「ありがとう」「お互いさま」～

義父が所属している地域の囲碁サークルでは、仲間たちの理解や手助けもあり、義父は診断後も参加を続けています。

また、民生委員は、あやめさんや義父を見かけたときに声を掛けるなど見守り活動をしています。



### 基本目標1 みんなの困りごとを早期発見・予防する仕組みづくり

囲碁サークルの仲間たちの中には、皆が長く参加を続けられるように、認知症サポーターの養成講座を受ける人が出てきました。養成講座で認知症に関する正しい知識を得たことにより、認知症予防のために健康づくりを意識したり、自分や家族の異変にも早く気付くことができるようになりました。

➡ **これが地域共生社会の実現です！**

※上記は一例です。